

- No.10 (1992. 1)
 Determinants of First Marital Formation in Japan :
 Does the Sibling Configuration Matter ?小 島 宏
- No.11 (1992. 2)
 Determinants of Coresidence of Married Couples with an Older Mother
 in Japan小 島 宏
- No.12 (1992. 2)
 Sibling Configuration and Coresidence of Married Coples with an Older Mother
 in Japan小 島 宏
- 人口問題についてのおもな数字 (1992. 1)

平成 3 年度研究評価委員会

平成 3 年度の研究評価委員会が、平成 4 年 3 月 17 日(火)に所長室において、次の委員全員の出席の下、以下の要領で開催された。委員長：岡崎陽一（日本大学教授）。委員：大淵寛（中央大学教授）、濱英彦（成城大学教授）、村松稔（元国立公衆衛生院部長）、森岡清美（成城大学教授）、河野綱果（所長）、阿藤誠（人口政策研究部長）、廣嶋清志（人口構造研究部長）、清水浩昭（人口動向研究部長）、伊藤達也（人口情報部長）。なお、書記として大江守之（世帯構造研究室長）が出席した。

議 題

(1) 人口政策研究部研究実施状況報告

阿藤誠 人口政策部長が、主要な研究課題である、①日本の将来人口推計、②人口問題に関する国民意識の分析、③人口高齢化の社会的インパクトに関する研究、④先進諸国の人口政策、家族政策に関する研究、⑤開発途上諸国の人口動向および人口政策に関する研究、⑥家族形成モデルの開発と応用に関する研究、⑦国際人口移動の動向と要因に関する研究について、報告した。

(2) 人口構造研究部、人口動向研究部、人口情報研究部の研究概況報告
 各部長が報告した。

(3) 質疑と評価

(4) 委員長による総合評価

(阿藤 誠記)

IUSSP・イタリア国立人口研究所共催 「先進国の性差と家族の変動に関するセミナー」

標記セミナー (Seminar on gender and family change in industrialized countries) は、国際人口学会 (IUSSP) の「性差と人口」委員会 (Committee on Gender and Population) と国立研究院 (CNR, Consiglio Nazionale delle Recerche) の人口研究所 (IRP, the Istituto di Ricerche sulla Popolazione) の共催で 1992 年 1 月 27 日から 30 日上記 CNR の会場で開かれたもので、筆者はこれに出席した。IUSSP のこの委員会は、女性運動の盛り上がりの中で開かれた 1988 年のオスロ会議 (その paper のいくつかは *Genus* 46-3/4 に掲載されている) の成功を受けて正式に発足したもので、当初からその中心にあった Nora Federici 教授が本セミナーの名譽議長を務めた。この委員会の議長は Karen Oppenheim Mason (米国) で、今回のセミナーの組織者は彼女と An-Magritt Jensen (ノルウェー) である。(この委員会による次のセミナーは 1993 年 2 月途上国についてのものが予定されている。) セミナーには正式参加者 43 名の他、地元イタリアからマスコミ関係者を含む多くが参加した (余談であるが、セミナーは低出生率に強い関心を持つ現地の新聞やテレビにも報道されたが、